

平成26年度 札幌市行政評価委員会 評価対象（施策・事業）への事前質問事項一覧
 （施策「5-2-1 市民が多彩な文化芸術に親しむとともに、自ら作り上げる文化活動の振興」関連）

NO	施策	事業名	質問事項	対象部局	所管部局回答
1	5-2-1 市民が多彩な文化芸術に親しむとともに、自ら作り上げる文化活動の振興	博物館建設構想推進事業費	博物館の建設実施に、現状で具体性はあるか。あるとすれば、いつどこに建設されるか(タイムスケジュール等)。この事業について、いつから継続しているか。またいつまで継続されるのか。	観)文化部	<p>この博物館建設構想は、昭和61年に検討を開始、平成8年度の長期総合計画により、博物館建設に向けた内容が盛り込まれた。 しかし、平成9年度の事業再評価プログラムにより、博物館建設は設計以降の内容が先送りされた経緯がある。 博物館活動センターは開館準備期の活動拠点として、平成13年11月に開館している。</p> <p>博物館建設構想推進事業費は、博物館活動センターが開館した平成13年度から継続している。また、次世代型博物館計画策定事業費は第3次札幌新まちづくり計画事業であり、平成24年度から26年度までとなっている。</p> <p>博物館計画については、これまでの博物館活動センターの活動成果を踏まえて、新しい時代に求められる博物館像を構築するため、平成24年度から検討委員会で検討を進め、今年度中の計画策定を予定している。</p>
2	5-2-1 市民が多彩な文化芸術に親しむとともに、自ら作り上げる文化活動の振興	次世代型博物館計画策定事業費			<p>検討委員会の中では、新たな博物館について、①これまで札幌の自然に関する十分な調査・研究は行われてこなかったが、札幌という土地は、豊平川扇状地を中心として形成された街(扇状地に100万人を超える大都市は国内に札幌のみ)があり、また、北緯43度という北極と赤道のほぼ中間に位置することから「北と南の接点」として、温帯性から亜寒帯性までの幅広い植生や一部高地の寒冷環境に取り残された氷期の遺存種である高山植物、間氷期に周辺の海域で隔離された動物群等、特徴的な生態系が見られるなど他都市に例を見ない地域であることから、その調査・研究を行う価値が高いものとして、札幌の自然と人の関わりを探求する「自然史に軸足を置いた博物館」が必要とされた。</p> <p>また、②これまでの博物館活動センターでの10年に渡る活動の中で、市民の参画・協働を重点的に進めてきたが、博物館関連施設との連携は十分でなかった。そのため、強みである市民の参画・協働をさらに伸ばし、これまで十分とは言えなかった関係機関等との連携・協力をさらに強化した、ネットワーク型ミュージアムとして事業活動を展開していくことが、札幌の博物館としてふさわしいと意見をいただいた。</p> <p>博物館の建築実施については、時期・場所等は未定となっている。博物館は教育・文化・観光に寄与できる活動機関として、ふさわしい場所への設置に向けて、庁内で検討しているところ。</p>